

## 北海道シダ植物相調査報告 4 —野幌原始林—

札幌市 武田 千恵子

### はじめに

北海道は冷温帯から亜寒帯に属しているためシダの種類はさほど多くなく、約 150 種約 30 雑種が報告されている（海老原 2016, 2017）。しかし北海道は面積が広い踏査が困難な山岳地帯もあり、詳細に調査されていない地域が多い。また研究者や愛好家が少ないため今後、新雑種や新産地の報告が期待できる。シダ植物は種によっては変異が大きく、雑種を良く作る属もあり、同定が難しい場合も多い。特に雑種の同定には孢子の状態を見るために実顕微鏡（50–100 倍）による観察が欠かせない。

札幌市近辺の平地で野生植物を観察できるフィールドは限られているが最近の温暖化の影響が少なからずあると思われる。今回は北広島市にあり、北広島レクリエーションの森（以降「レクの森」）から繋がっている野幌原始林内を通る林道の路肩付近のシダを調査した。

### 調査方法

2016 年から 2018 年にかけて延べ 30 日間、調査した。観察したシダ植物を野帳に記録し、レクの森調査報告（武田 2016）で確認されなかったシダを採集した。自然保護のため根の採取は最小限にとどめた。1 カ所しか確認できなかったマンネンズギ（図 1）と葉身上部の欠けたイブリハナワラビ（図 2）は写真撮影した。科の配列・

和名・学名（著者名は省略した）は系統図に沿って書かれている日本産シダ植物標準図鑑（海老原 2016, 2017）によった。採集した標本はすべて国立科学博物館標本庫（TNS）に、また再度採集して北海道大学総合博物館陸上植物標本庫（SAPS）に寄贈する予定である。

### 調査地

北広島市の北部にあり細長く伸びる森林で電子国土 web (<https://maps.gsi.go.jp/> 2018 年 12 月現在) で野幌原始林(特)と表示されている。北緯 42 度 59 分付近、東経 141 度 32 分付近、標高約 36-94 m である。北側に自転車道(エルフィンロード)・JR が通る。また南側を道道 1080 号が通り星槎道都大学・田圃がある。レクの森は野幌原始林の一部であるが武田（2016）で報告しているので今回は除いた。

林内には昭和 27 年に特別天然記念物に指定されたトドマツの林が 3 カ所（39.7ha）含まれる。林道のおもなものは原始林内の中央部を東西に走っている。レクの森から続く林道は立ち入り禁止になっており、他の入口は荒れているため訪れる人はほとんどいない。林相はおもにトドマツ林で種々の広葉樹・植栽されたアカエゾマツ林が広がる。林内はチシマザサが優占し、中央部は伐採され跡地に帰化植物が、西部の湿地にトンボソウ群落がある。

希少な植物のうち顕花植物では環境省